



色彩館に咲く

イヌツゲとセイヨウヒイラギの仲間

Ilex crenata

モチノキ科モチノキ属

原産地：日本のほぼ全土、朝鮮半島南部

どんな形も自由自在

イヌツゲはモチノキ科の常緑小高木です。花は白色でとても小さく、実は光沢のある黒みがかった紫色の実をつけます。学名では「イレクスクレナタ (*Ilex crenata*)」と呼ばれ、色彩館には「スカイペンシル」という長細い円筒状に成長する園芸品種が植栽されています。モチノキ科に属しているイヌツゲは、ツゲ科ではないのにイヌツゲと名付けられています。このイヌツゲの「イヌ」というのは「似て非なるもの」という意味で付けられています。イヌツゲとツゲの違いは、イヌツゲの葉の縁がギザギザとしているのに対し、ツゲは葉のフチにギザギザがありません。どちらも刈り込みに強く、家やガーデンなどの生け垣やアーチとしても使用され、他にもトピアリーという植物で作るオブジェにも使われます。このトピアリーはイヌやネコ、キリンやゾウ等の動物を始め、立体的な幾何学模様などのバラエティーに富んだ造形がなされています。

イヌツゲの他にも、セイヨウヒイラギの仲間には400種以上の様々な種が広く分布しています。古くからセイヨウヒイラギには魔除けの力があると信じられてきました。北半球ではローマ時代から葉と果



実が冬至とクリスマスの縁起物として用いられています。しかし、クリスマスに飾ったセイヨウヒイラギを、十二日節である宵祭の日を過ぎても取り扱う事を忘れると、残った葉と小枝の数だけ災難が降りかかるといわれています。ローマ時代には農耕の神様を祝うサートウルナーリア祭という冬至前後に行われるお祭りがあり、クリスマスの前身とされています。このお祭りの期間中には知り合いへ贈り物を渡す時に、セイヨウヒイラギを添えて贈り物をしました。今でも悪魔や妖精がいたずらをしないよう、教会や民家に飾るだけでなく食事にもこの小枝を添える風習があります。

魔除けの植物を飾るという風習は日本の節分にも似ています。こちらはヒイラギの葉の棘が、鬼の目を刺すとされ玄関に吊るされます。少しややこしいですが、セイヨウヒイラギがモチノキ科なのに対し、ヒイラギはモクセイ科に分類されます。見分ける方法は、葉の付き方が交互についているものがセイヨウヒイラギ、葉が対になっているものがヒイラギです。色彩館にはこの2つが植栽されているので機会があれば見比べてみてくださいね。



豪雪地としてよく知られている岩見沢ですが、今年は気温が低い日が多く、雪が少ないというバラにとってはあまり良くない気候が続いています。園内を見て周るとすでに枝が茶色くなり枯れこんでいるのを見かけ、去年よりバラの凍害は多いことが予想できます。春が近づくにつれ徐々に凍害が現れてきますが、分かりやすいのは茶色くしおれたようになります。これは凍害に限らず、水枯れや癌種病など様々な要因で茶色になります。バラを知らない人でも分かりやすいです。また、凍害で多く見られるのは枝が真っ黒になっているか、黒の斑点状のものが出ているかの2つです。春先に冬囲いの中を見たときに枝が黒くなっているとショックは大きいです(自宅のバラだと尚更ショック)。黒の斑点は去年の春先に残して観察しましたが、大概の枝は枯れました。バラが顔を出すのも段々近づいてきましたので、心の準備を。



モッコウバラ にこ
木香薔薇と奏でる二胡の調べ

3月20日(月) 14:00～

演奏 shokoさん(二胡) ken_Gさん(ギター)

場所：いわみざわ公園バラ園内 入場料：高校生以上 100円
室内公園「色彩館」大温室 小中学生 50円

※幼児無料・障がい者手帳ご提示でご本人様と付添人様1名まで無料

中国の楽器二胡(にこ)と、中国原産のバラ木香薔薇(モッコウバラ)の競演。
ひとあし早い麗らかな春の訪れを、ここ色彩館で感じませんか？



つららの話

ぽたぽた。

よし
なし
ごと

徐々に気温が上がり、春の気配を感じる季節になりました。建物の軒下や水道、樹木など様々な場所につららができているのを見かけます。

つららの語源は「表面がつるつると光沢がある」、

「並び連なる」という意味の「つらつら」が転じてつららとなったとされています。

ある本の中に、カエデの枝が折れて樹液がつららになったものを食べるという場面がありました。メープルシロップの原料となるものですから、天然のアイスキャンデーといったところでしょうか。ふと、小学生の時につららを食べていた時期があったなあと思い出す一場面でした。MIZ



ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第三十七回

シュラブローズ

シー フォーム

Sea Foam

作出国：アメリカ

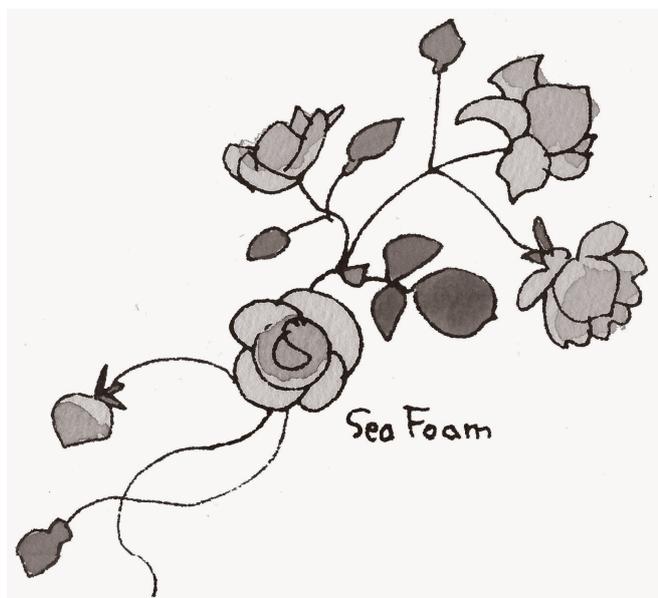
作出者：Ernest W. Schwartz

作出年：1963年

ハーディネスゾーン：Z4

繰り返し咲き性

交配：[(White Dawn × Pinocchio) × (White Dawn × Pinocchio)] × (White Dawn × Pinocchio)



花は小さなアイボリーホワイトの八重咲きで、房状にたくさん咲かせます。開花初めはほのかな肉色を帯びた白色で、開花後は純白色になり、気温が下がる秋には花が淡いピンク色を帯びてきます。花保ちが良く、枝はしなやかでほふくするように伸びるので、グラウンドカバーとして利用することもでき、つるバラのようにアーチやフェンスにも利用できます。シュラブローズと分類されていますが、開花が終わるころ、その花枝からまた新しい花枝が出るのは、ポリアンサ系の特徴と同じです。葉は小さな照り葉で耐病性が強く、耐寒性は Z4 もあり、北国での栽培に適した優秀な品種です。

これほど優秀な品種なので、もちろん受賞歴があり、1963年にローマ金賞、1968年にARS デービッド・フェアスタンバーグ賞を受賞しています。ちなみにARSとはAARS(オール・アメリカ・ローズセレクション)と似ていますが、アメリカ・ローズソサエティーの略になります。1892年に設立された米国バラ会のこと

で、バラ栽培を楽しむことに特化した教育・非営利団体です。評価基準は分からないものの、バラ栽培を楽しんでいる人たちからの賞と思うと優秀、もしくは愛されているバラだと想像ができます。

国内では一部、スワニーという品種と混同されて流通されることが多いみたいですが、似てはいるものの、花の大きさが違います。当園でスワニーは栽培していませんが、ピンクスワニーは栽培しており、確かに似たような雰囲気ではあるのでご注意ください。

当園で栽培されているシーフォームは整形式ローズガーデン内の中央のポールの下に植栽されています。この品種はポールに植栽されているニュードーンの血筋が入っているので、雰囲気はどこでも似ていて、親子のように思えます。ただあまり生育が良くなく、本領をまだ発揮してくれていませんが、開花時には可愛らしい花を見せてくれますので、是非見にいらして下さい。

平成 29 年度 いわみざわ公園バラ園作業ボランティア

『トムテ』のなかま 募集

◆◇◆『トムテ』とは ◆◇◆

そのお家のお手伝いをしたり守ってくれる、
スウェーデンの妖精の名前です。



岩見沢の市の花は「バラ」です。

市民の皆様に市の花「バラ」にもっと親しんでいただけるバラ園に
なっていきたいという思いを込めて、作業ボランティアを募集しています。
バラについて少しずつ学びながら、バラ園と一緒に育んでみませんか？



トムテ説明会
開催します

平成 29 年度 トムテ 事前説明会

少しでもご興味ある方、お気軽にお越しください！（事前申込不要）

とき 平成 29 年 3 月 25 日（土） 13:30 ～

場所 いわみざわ公園室内公園 色彩館 研修室

お問い合わせ先 いわみざわ公園バラ園（室内公園 色彩館）

〒068-0833 岩見沢市志文町 794 番地 TEL 0126-25-6111

URL : <http://www.iwamizawa-park.com> Eメール : info@iwamizawa-park.com

担当 : いわみざわ公園指定管理者 空知リゾートシティ（株） 田中

3 月の市民園芸講座のご案内



●3月19日（日） 13:00~15:00 色彩館でスケッチしよう

料金：無料 定員：10名

講師：藤川 志朗さん イラストレーター

●3月25日（土） 10:00~12:00

ばらゼミ①～系統そしてディネスゾーン～住むところで世界はかわる。

料金：無料 定員：40名

講師：工藤 敏博さん ローズグロワー

●3月26日（日） 13:00~15:00 家庭果樹の楽しい管理

料金：無料 定員：40名

講師：内田 哲嗣さん 中央農業試験場

編集・発行 空知リゾートシティ株式会社（いわみざわ公園バラ園指定管理者）

お問い合わせ いわみざわ公園バラ園 室内公園「色彩館」 0126-25-6111